



大阪公立大学共同出版会

No.32

# NEWSLETTER

ニュースレター

Osaka Municipal Universities Press (OMUP)

## 目 次

- OMUP理事長 新年のご挨拶 足立 泰二 ..... 1
- 特集 OMUP創立15年・NPO化10年特別インタビュー  
OMUP出版活動への貢献人、群像（続） ..... 2
- 自著を語る（16）  
『10 ans d'échanges, et moi, et moi, et moi!』  
Fle tous azimuts-le Fle à l'UPO ..... 4
- 自著を語る（17）  
『民間放送のかがやいていたころ』 辻 一郎 ..... 5
- 第32回OMUPサロン「教科書が語る戦争」の報告 ..... 6
- 新刊書の紹介 ..... 6
- 大阪公立大学共同出版会事務局より ..... 6
- 編集後記 ..... 6

## OMUP理事長 新年のご挨拶



OMUP理事長 足立 泰二

### 2016新年に想う

皆様 明けましておめでとうございます。

2016年の幕開けとともに、大阪公立大学共同出版会(OMUP)の会員の皆様に新たな私どもの活力ある現況を報告できることを嬉しく思います。また、昨年来「創立15周年・NPO化10周年」の節目に当たり、今年こそ飛躍の年にしたいとの意気込みを持ち合わせております。

さて、これまでOMUPは、①南大阪に位置する複数大学の教員が自主的に立ち上げ、②専門分野は異なっても出版を通じて、互いに切磋琢磨する機会を創り、③各構成大学当局の管理下には入らず、④特定非営利活動法人として展開してきました。いわば、地道に我々の足元からの「知の発信」を

モットーに展開してきました。幸いにも、構成大学以外の大学の方々や、その他の一般市井の方々もご参加いただき、自由闊達な主張も頂戴して今日のOMUPがあります。個人的「知的財産」を従来の「紙媒体での情報発信」を主体とするものであります。とくに、ここ数年の傾向としては、将来性ある若い研究者の出版意向が高まっていることと、一般市民の「知の発信」、「社会的啓発活動」に支えられている感じさえする程です。

一方、最近のグローバル化は出版会にも押し寄せ、どちらかと言うと「軽薄さ」が目立つのと、そうでなければ英米語の単一言語化へと収斂する傾向があります。Facebook, twitterなどによって自己表現する機会（多くは映像貼り付けで状況報告する程度）もあるのですが、ヘイト・スピーチに代表される極めて短絡的、情緒的表現に終始するものです。もちろん、国際的相互理解には言語の共有は必要でしょう。でも、英米語による「我がもの顔」がまかり通っているではありませんか。経済優先の単一言語への収斂、我々はそれに<sup>くみ</sup>は与しない。多言語・多文化の多様性こそが文化活力の原動力となり得るからであります。Cultural Crossroadとなることを誇りとして、進みましょう。

新年に当たり、会員の皆様方に支えられていることを心に刻んで、前進することをお誓いする次第です。

敬白

インタビュアー 理事長 足立 泰二

ニュースレターNo. 31の続編として、本号ではOMUP立ち上げ及びNPO化初期に出版事業に貢献頂いた先生方にインタビューしたもので、インタビューに当たっては、前回同様、初版発行年代順に、編・著者（敬称略）の近影、当時および現在の所属、出版書名と発行年を記載した上で、①発行に至った経緯、②発行後の反響、成果、③今後の展望、④出版会OMUPに望むことなど、についてお尋ねしたものである。紙面の都合でかなりの部分を割愛したが、今後機会があればOMUP発展の原動力として公刊したいものと感じている。



### 森田 尚文

(当時大阪府立大学大学院農学生命科学研究科教授、現在東洋食品工業短期大学 理事)  
『農学生命科学へのいざない』2002.5  
『OMUPブックレットNo1食文化、東と西』2005.5  
『小麦特性の解明—ブッシュクの業績—』2007.4

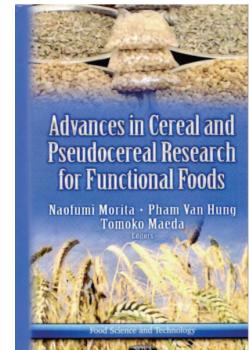
①：思い起こせば大阪公立大学出版会設立当時からのお付き合いです。OMUPユニヴァシリーズ企画第1号として「農学生命科学へのいざない」と題し、農学生命科学の分野に興味を持つ高校生、大学生、さらには、この分野に興味を持つ人々への啓蒙、つまりエクステンションの意味で、現在の醸酵化学、食品化学の分野で教鞭をとることになったことについて「21世紀の食と生活の科学」の分担執筆したのが最初です。その後、編集部からのお誘いで肩の張らないA5版サイズで専門に関連した内容で講義にも使える小冊子をということで「食文化、東と西」を出版しました。第3冊目は翻訳本ですが、私が学会長をしていた日本穀物科学研究院の創立30周年記念事業として、世界の穀物科学界の第一人者、カナダ・マニトバ大学のW. Bushuk先生をお呼びして特別講演をして戴いた。そのBushuk先生の生涯にわたる研究業績「Wheat Quality Elucidation: The Bushuk Legacy」を上記のように訳出しました。

②：「農学生命科学へのいざない」の分担領域「21世紀の食と生活の科学」では趣味の釣りの話を含め、食が生活習慣病、癌予防などに如何に大切なかを述べました。医食同源の立場で発芽玄米、雑穀の勧めなど、実際の研究結果から執筆しましたので世間からは食の重要性がよく解ったとご意見を頂戴しました。「食文化、東と西」は、なぜ西洋と東洋とでパン食と米食の違いが生じてきたかを種々の観点から述べ、非常勤講師に出向した短期大学等で副教材として用いました。また自身の挨拶あるいは名刺代わりに使用しました。好評を戴き、再版もして頂きました。「小麦特性の解明—ブッシュクの業績—」は小麦の諸特性についての学術書ではありますが、私にとっては退官記念事業の一つとして使用させて戴いた。

本書の内容から特に製粉会社における社員教育・研修に利用頂いたと聞いています。

③：今までに殆どの学術的なデータは発表しており、さらにお世話になることは無さそうではありますが、昨年も招待講演で6月にエディンバラに行き、その折に9月末のロシアのアストラハンの学会に講演依頼され、さらには11月にサンフランシスコでの学会に招待されるなど、それぞれの国での食生活に絡めた暮しぶりの活字化がないわけでもないです。余りに専門に偏ると読者の興味が湧かないで、専門の食と趣味の釣りの話を絡めて執筆すると言うこともありましょうか。

④：近年のインターネットの急速な発展により新聞、雑誌、書籍などの活字の利用が急激に減少しています。このことを考えると従来からおこなわれているOMUPでの出版体制もハードコピーによる書籍の出版からインターネットを取り入れたe-Bookによる電子書籍との併用が必要でしょう。大阪府立大学と大阪市立大学は「高度研究型大学—世界に翔く地域の信頼拠点—」として展開して頂きたいですね。英語によるe-Bookへの取り組みが遅かれ早かれ必要となります。そのことは出版費の低減化にも寄与し、研究成果を諸外国にも発信できるでしょう。実は小生も米国からもメール勧誘があり、160頁ほどですが書籍をe-Bookとして出版しました（表紙写真参照）。手元には最小限のハードコピーを置いていますが、その後もメールによるエディター、出版などの勧説が絶えません。自然科学分野でも新知見を数ページの論文で出すだけではなく、自身の「来しかた、行く末」を紙媒体で残すことも大切なことだと思います。



### 福井 希一

(大阪大学大学院工学研究科教授、専攻、分子細胞生物学)  
サムナー著 福井希一編訳  
『クロモソーム 構造と機能』2006.3

①：2006年3月31日にOMUPから『クロモソーム構造と機能』エイドリアン・サムナー氏が著したものを分担して翻訳し、出版しました。当時、科学技術庁（現在の文部科学省）のグラントで6年間に20億円弱の総合研究予算を頂きました。ターゲットとしたものが染色体、クロモソームと呼ばれる遺伝子の集合体でした。当時はまだその構造実態が解明されていなかったので、それを明らかにしようというプロジェクト

クトでした。当時と言うのは10年ほど前ですが、ようやく生物分野でも使われ出したナノテクノロジーを用いて染色体の構造を解明しようと、50名ほどの研究分野を異にする研究者を糾合して取り組んだ課題でした。我々にとってありがたかったのは、科学技術関係の出版社は多くありますが、商業的には成り立たないものは出版していただけない風潮が主でしたが、総合研究プロジェクトで研究対象としたクロモソームに関する研究書をOMUPで出版していただけたことで、大変感謝しております。

②&③：染色体に関する基盤的な考え方をまとめ、これをベースに出発していきましょうという共通認識ができました。我々のプロジェクトにとっては時宜を得たもので、この本があったことは非常に助かりました。まず、ナノテクノロジーのその後の発展には著しいものがあります。生物の基本的な構造を明らかにするという点では、今やナノテクノロジーを抜きにしては考えられない状況になっています。ドイツとも共同研究をしておりまし、英國・ユニバーシティカレッジロンドンのナノテクセンターの教授と組んで、3年の共同研究をしています。ナノバイオを始めた一人として、引き続き開発に当たっております。もう一つ、この本のことですが、染色体というのは、それほど売れたわけではないのですが、この関係者には非常に歓迎されまして、広く利用していただいている。出版から10年たっておりますが、今でも最新の成書として、各大学の図書館へ寄贈しております。すべての図書館からは受領のお知らがあります。最先端の知識はインターネットで閲覧できますが、その知識をどう位置づけるか、今までの学問の成り立ち、それから導き出される現状把握をきちんとまとめた本はどうしても必要だと思うのです。『クロモソーム』は翻訳本なのですが、染色体研究の総まとめです。いまだに日本にはないものです。商業出版社ではできない非常に貴重なことをしていただいたかと思っています。

④：科学技術の場合、最新の成果が注目されがちですが、教育を受け、知識を得て、新しいものを紡ぎだす、そのプロセスが肝要です。歴史的な経緯を熟知していることが専門家たる所以です。最先端を追うことは簡単ですが、プロセスを理解しておかなければなりません。最先端はコンピューターがあれば、ことは足りると言う側面もありますが、本になっていいるというのはそれなりの成果の積み重ねがあることです。その時の成果が取りまとめられている本はもちろん、復刻版も出版して日本の科学技術に関するその当時の最高峰ともいえる成果を限定出版でもよい、ぜひ紙媒体で「科学文化」の発露を試みて戴きたいものです。またOMUP関連大学に限られることなく、英語はもちろん、多言語での研究成果が著わされて初めて、研究のグローバル化が進展するものと存じます。今後一層のご活躍をご期待申し上げます。



## 乾 善彦

(当時大阪府立大学人間社会学部教授、現在  
関西大学文学部総合人文学科教授)

『OMUPブックレットNo.6「堺・南大阪地域学』シリーズ1

堺学から堺・南大阪地域学へ

—地域学の方法と堺・南大阪地域学—』2006.8

①：大阪府立大学と大阪女子大学が統合した1年目に文部科学省の現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）に、「地域学による社会貢献」という題で応募しました。堺・南大阪地域の町おこしを兼ねて、地域学ということを考ており、2005年度に採択となりました。その中に、堺・南大阪地域の教科書作りが組み込まれていました。教科書を4年間で12冊を出版しないといけないのです。その時に小脇先生にご紹介いただき、OMUPでの発行となりました。私がその1冊目として入門編『堺学から堺・南大阪地域学へ』を書かせていただきました。その後4年間で12冊と、別刊3冊をOMUPで出版いたしました。また南大阪大学コンソーシアムの関空研究会とコラボレーションいたしまして、そちらも地域学シリーズのブックレットの中に組み込んでいただいております。大学の各部局の先生方に頑張っていただいて、質の高いオリジナルの論文を短くまとめていただいたように思います。先生方自身が講義でお使いいただいたり、私も授業での参考書として宣伝させていただいたりしております。

②：その後も、取り組みを続けていかなければならないこともあります、次の年から南大阪地域学会を立ち上げ、毎年研究発表会と講演会を行っております。これからも継続していく予定ですので、できれば南大阪地域学シリーズの続編を出していただけたらと思います。また、大阪府立大学では、昨年まで6年間、堺・南大阪地域学の半年のリレー講義を続けておりまして、トピックは相当な蓄積があるはずです。そちらも掘り起こしていただけたら、南大阪地域の活性化に役立つと思います。

③：私が関係した電子出版ですが、文学大辞典を電子化したことがございます。そうしますとあちこちから紙媒体のものが欲しいという声が上がりまして、当初予定はなかったのですが、後から紙媒体の辞書を作ったという経緯があります。ですから、紙媒体は紙媒体、電子化されたものは電子化されたものでどちらも良さがあり、両方とも必要だと思うのですね。もちろん電子化されたものがこれからは多くはなってくるとは思いますが、紙媒体の本を出版することは大事なことだと思います。私の大学の関大出版は関西大学の出版部なので、本屋としての機能がありませんので、あまり流布もしない在庫はなくなります。資料を出版するわけなのですが、数年経てばすべて引き取ってしまって大学には残らない。大学で出版する意味が薄れるように思います。

④：このブックレットのシリーズは大変貴重なものだと思います。廉価なもので、薄くてインパクトがあり、これを読めばまず何かが分かるという、このシリーズが大阪の公立大学の全体像だと、いきつけばよいと思います。また、出版会は販路が限られていますが、共同のブックフェア等を重ねていき、身近で手に取れるような形で見せられれば、販路は広がるかと思います。目録だけでは分からないですが、実際に手に取ることができれば、買ってみようかとも思いますよね。



大仁田 義裕  
(大阪市立大学大学院理学研究科教授)

『OCAMI Studies Volume 3  
Riemann Surfaces, Harmonic Maps and Visualization』  
2008.12

①：OCAMI Studies Volume 3をOMUPから出版していただきました。それは2008年に大阪市立大学で国際学術シンポジウムを開催し、その報告論文集をまとめたものです。そのシンポジウムというのは 年に1件だけの大学の資金援助による国際学術シンポジウム開催に採択されたものなのです。私は微分幾何学が専門で、つまり数学的、幾何学的な可視化の研究技術とも連動して進んでいるわけです。それでこの本はコンピューターグラフィックスで書かれた研究対象の曲面や図ができるだけ盛り込んだのですが、そういうものを非常に美しく印刷していただきました。

②：さらに新しい手法、研究方法、研究成果があがり、またいろいろな分野、例えば、偏微分方程式 可積分系、トポロジーなどとの一層の関わりができました。そういう関わりが新しい数学を生み出しています。国、地域、言語を越えて、数学があればすぐに友達になりディスカッションできる、数学の心で通じ合えるというのが数学の魅力です。

昨今、サイテーションやインパクトファクターが重要視されていますが、それらは統計的であり、母集団が大きいと有利です。しかしハイレベルな研究というのは限られたえりすぐりの少人数の研究者しかいない、そういう人たちの研究がさらに新しい研究や多くの人に影響を与える数学を生み出してくれると思います。サイテーションやインパクトファクターで研究を、また研究分野を評価するのは危ないものがあります。ノーベル賞を受賞した人の研究と言うのは、人が選ばなかつた道でぶれずに究め、それがすばらしい発見や研究を生み出しているので、そういうことを忘れてはならないと思います。ここ20～30年の日本は大学の研究とビジネスを混同している気がしますが、非常に危険だと思いますし、若い人もそういう中で研究をしていかなければならぬのは気の毒だと思います。

③：そのためにも研究成果をきちんと出版物にするというのは大変重要なことだと思います。私も自分が作ったプロシーディングは海外に持って行って研究者に差上げたり、研究所に寄贈するのですが、非常に喜ばれます。今やっているプロジェクトは来年度が最終年度なので、また本を出せないかと思っています。

④：出版費用の確保が問題です。費用にいろんな選択があるほうが良いと思います。例えばプロシーディングを出すときに安いけれども内容がしっかりしたものが出せるとか、または電子版、あるいはオンデマンドでリクエストするというのもいいと思います。

数学は論文、論説、著作を残していくのが仕事だと思います。自分の研究の域と言うのはこれだと学会で発表したり論文を出したりするのだけでは伝わらない、同じ理論を証明するのも自分のやり方はこうだとそれを本にするのが非常に大事だと思います。

## 自著を語る（16）



10 ans d'échanges,  
et moi, et moi, et moi!

MF Pungier 浅井美智子 猪俣紀子 著

ISBN978-4-907209-42-1 C0085

A5判 並・リング製本 136頁

定価：本体1,200円+税

### <既刊>



un abécédaire francophile



on dit/  
on fait

静かな本の國の片すみで、3冊の小さな本たちがのんびりしている。彼らの長いフランス語の名前は、表紙・裏表紙に記されている。1つ目は「un abécédaire francophile」、26 mots à voir, à lire, à rêver」、2つ目は「on dit/ on fait ... j'ai dit, j'ai fait！」、3つ目は「10 ans d'échanges, et moi, et moi, et moi ! 10 ans d'échanges, et toi ? et toi ? et toi ?」という。それぞれ、短く'l'abécédaire (2012年のいいスタートが切れた最初の本)、on dit/ on fait (面白い2013年の試しの本)、10 ans d'échanges (ここまで成長が見られる2014年の本)と呼ばれている。

- pfffff、私たちはまだベストセラーになっていないな、とため息まじりにいう10 ans d'échanges。
- それはそうだよ。ベストセラーになるのはすべてジャンルがはっきりしているよ。だけど、私たちは、どんなジャンルに属しているの？簡単に言えるの？と聞くon dit/ on fait。
- まあ…そうだよね。私たちはフランス語と日本語で書かれているし、教科書ではないし、教材でもない。私たちは紀行文なのか？フランスへの旅の思い出なのか？と10 ans d'échangesが自問する。
- それだけではない！私たちはユニークな本だよ。私たちは教育的なプロジェクトの成果だよ。フランス語学研修に参加した学生達と3人のマダムによって作られた。マダムA.、マダムI.、マダムP.のほかは、毎年そのプロジェクトチームのメンバーは変わってきた。2014年には以前フランス語学研修に参加した研修生と他の2人の先生に協力をいたしました。だから、あなたはちょっと分厚くなっているね、とl'abécédaireが10 ans d'échangesを見ながらつけ加える。
- それにしても、私たちはベストセラーのように完璧なものではない、とon dit/ on faitが言う。学生にとって私たちのテーマは漠然としていたのではないか？私たちの文章を読んだ？日本語の文章をチェックするマダムA.の悩みを覚えていないか？もう少し面白い文章を書けばよかったと後悔している学生もいる…。マダムP.は…。
- 外国語で文章を書くのは母国語で書くのとはちょっと違うと思う。言えることが限られているから、共通の特色が現

れている（電子辞書、インターネットを頼ったからか？）。確かに、文章を書くのが苦手な学生もいる。私たちの文章が憂鬱な宿題のようなものだった。それでも、それぞれの文章に個性があるよ。ユーモア、深い意味、神秘的な雰囲気、明るさ、暗さ、きれいな日本語、きれいなフランス語…いろいろな文章を味わえる。いずれにしても、文章を書くのはいい経験だったそうだ。文章を書く必要性を感じた学生もいる。フランスに行ってからとフランスに行く前のことと比べて考えさせる機会だった、と10 ans d'échangesは説明する。プロジェクトをきっかけにして、自分の日常生活でそれまで見過ごしてきた物事を発見し、その大切さがわかつてきた。他の学生の文章や写真から、自分とは異なる視点に気づいた学生もいる。

— そうだよね、私たちは単なる語学研修の報告書ではないよ。私たちは現地で積極的に撮られた写真に飾られている。現地でしか撮られない写真だよ。写真の撮り方さえそんなに簡単ではなかった、とon dit/ on faitは急に思い出している。学生がマダムIのアドバイスをもらって良かったと思う。そうだよ、私たちは創造的なプロジェクトだった！だから、このプロジェクトが始まったときに、たどり着くところが誰にも分からなかった。作成しながら、私たちの構成が少しずつ現れてきた。編集の作業に参加した学生と3人のマダムはその経緯をよく分かっていると思う。大変だったと言いながら、楽しかったとも言える。結局いい思い出になっている。

— マダムAのおかげでOMUPのチームと出会った。この出会いのおかげで私たちはいい本になったと思う、と思い出しているl'abécédaire。あの瞬間を覚えている？みんなが私たちの出来上がった姿を見た瞬間。生協に並んで販売されている私たちを見た瞬間！あの感動…。

— 分かった！人々に夢を見させるために私たちは作成されたんだ、と突然叫ぶ10 ans d'échanges。私たちは、小さいけれどユニークでかっこいい本だ。三人兄弟、三銃士みたいだと思わない？

— Pssst、とささやくl'abécédaire。三銃士は四人だったよ。  
(Fle tous azimuts-le Fle à l'UPO)

## 自著を語る（17）



民間放送のかがやいていたころ  
ゼロからの歴史 51人の証言  
関西民放クラブ  
「メディア・ウォッチング」編  
ISBN978-4-907209-46-9 C0065  
A 5判 並製本 680頁  
定価：本体2,315円+税

関西民放クラブのメディア・ウォッチングが中心になり、一冊の本を作り上げた。『民間放送のかがやいていたころ～ゼロからの歴史 51人の証言』である。

この関西民放クラブとは、かつて民間放送に在籍した人たちの親睦団体で、現役時代には激しく争った競争相手だが、いまは一堂に会し、和気あいあいと親交を深めている。また

メディア・ウォッチングとは、「現役でなくなても、我々は放送人だ。何時までも放送にもの申そう」という趣旨でスタートした同好会だ。

完成した本は、680ページ、重さ約1キロ。ずっしりと重い本には、関西の放送人の熱い思い出話がぎっしりと詰まっている。

では何故こんな本を作ることになったのか。一昨年の2013年には、日本にテレビが誕生して60年。それを記念する番組が放送された。初めのうちは、「ああ、こんな番組もあった。うん、これも懐かしい」と楽しんで見ていたが、やがて登場するのが東京局制作のものばかりだと気がついた。だがテレビ60年の歴史の中では、関西発の番組も東京局と競い合い、それが日本のテレビ界の多様性を実現させてきたという実感がある。これを見過ごしたのでは、放送史は今後も東京中心で語られることになる。この風潮を何とか改めたい。

そこで考えついたのが、関西で名番組を作りあげた民放人への聞き取りを、メディア・ウォッチングが中心になって行うことだった。

取り上げた番組は、「びっくり捕物帳」「番頭はんと丁稚どん」「スチャラカ社員」「てなもんや三度笠」「アベック歌合戦」「アップダウンクイズ」「夫婦善哉」「そっくりショー」「11PM」「ハイ！土曜日です」「ヤングおー！おー！」「お荷物小荷物」「ただいま恋愛中」「仮面ライダー」「新婚さんいらっしゃい！」「必殺シリーズ」「プロポーズ大作戦」「パンチDEデート」「まんが日本昔ばなし」「MBSナウ」「突然ガバチョ！」「夜はクネクネ」「世界まるごとHOWマッチ」「エンドレスナイト」「鶴瓶・上岡パペボTV」「サンデープロジェクト」などざっと200本にのぼっている。

話を聞いたのは、いずれも当時の放送界の常識や決めごとをぶち壊し、新しいテレビ的表現やラジオ的表現を模索した人たちだ。しかも「自慢話を是非」とお願いしている。自分たちが如何にタブーに挑戦し、冒険したかを熱く語ることになり、そのあぐくつい口をすべらせて、現役批判も飛び出した。

例えばドラマ「どてらい男」の演出で名をあげた関西テレビOBの野添泰男氏は、「僕らのころは、『こういうことを言いたいから、こんな番組を作る』という気持ちが強くありました。何か青臭い部分と言うか、とんがった部分がありました。でもいまの放送人にはそういうことがありません。お利口さんで（略）、サラリーマンとして安住しているだけで、表現に対する意欲にとほしいように感じます」と断じている。

だが誤解しないで頂きたい。この本は「昔はよかった」と回顧し、「それにくらべて今は」と言うために、まとめたものでは断じてない。テレビは発足当時から、「一億総白痴化」とか「電気紙芝居」と謗られ、このネガティブな評価をバネに伸びてきたメディアである。それだけにこの本に登場する現役批判は、「テレビの可能性をもっと信じて頑張って欲しい」という先輩から後輩へのメッセージだ。

またここには番組制作や報道のディレクターだけでなく、アナウンサー、技術者、編成マン、営業マンなど、制作者を社内で支えた人たちも登場する。その意味でも珍しい本であり、ネット時代の中でテレビのあり方をもう一度考えるにあたっても、必読の本である。

（関西民放クラブ「メディア・ウォッチング」  
世話人代表 辻一郎）

## 第32回OMUPサロン「教科書が語る戦争」の報告

吉岡数子さんは、1932年に朝鮮で生まれ、1937年に満州へ移り、そこで良い先生に教えられ、教職を志すようになられた人です。農務官僚であったお父さんの死により、敗戦直前に帰国。女学校を受験しようとしたところ、満州で使っていた教科書と日本で使っていた教科書が異なっていたのでした。当時、受験には、教科書の丸暗記が前提でしたから、短期間のうちに日本の教科書を暗記しなおさざるをえませんでした。ところがほどなく敗戦。女学校一年生になっていた吉岡さんを待っていたのは国民学校六年生用国史・修身・国語教科書の「墨塗り」でした。雑に扱うたちまち「非国民」と叱られ、丸暗記を強要された教科書ですが、「間違ったところを消す」と言われ、理由も一切告げられず、黒塗りさせられたのです。その体験が吉岡さんの原点になりました。「これが正しい」と一方的に強制するのではなく、子どもたちが教科書をはじめ、たくさんの資料を比較検討しながら、時間はかかっても何が真実か自分で判断していくようにするのが教育だと吉岡さんは思うようになりました。その思いが70年後に結実したのが『教科書が語る戦争』なのだと思います。

「墨塗り」を経験したのは、吉岡さんお一人ではなく、吉岡さんの前後の世代の人たちすべてです。その人たちは吉岡さんと同じような思いを多かれ少なかれ持たれたと思うのですが、その思いを、吉岡さんほど熱く持ち続け、そして家族や周囲の人の協力を得て一緒になって次の世代に伝えようとなさっている方には、初めてお目にかかりました。

(文責：中村 治)



北島順子 吉岡数子 著  
ISBN978-4-907209-44-5 C3037  
A4判、並製本、200頁  
定価：本体1,900円+税



OMUPサロン当時の様子

## 編集後記

新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になり、ありがとうございました。OMUPの会員数も年々増え、現在238名となりました。少しでも皆様のお役に立てるよう、今年も努力してまいります。本年も、何卒よろしくお願い申し上げます。

(N.Y.)

## 新刊書の紹介



### チョウの斑紋形成の生物学

八木孝司 編著

ISBN978-4-907209-43-8 C0045

B5判、並製本、192頁

定価：本体4,500円+税



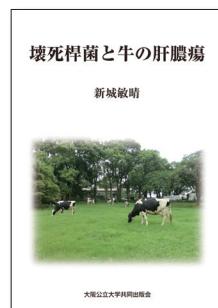
### カウンセラーは動物実験の夢を見たか

中井孝章 著

ISBN978-4-907209-47-6 C0011

A5判、並製本、98頁

定価：本体1,500円+税



### 壊死桿菌と牛の肝臓癌

新城敏晴 著

ISBN978-4-907209-45-2 C3045

A5判、上製本、220頁

定価：本体2,500円+税

## 大阪公立大学共同出版会事務局より

大阪公立大学共同出版会は、大阪市立大学および大阪府立大学における教職員と、本出版会の趣旨に賛同する者の自主的な参加を得て、研究・研究成果の発表を助成し、また民間出版社において採算上刊行を引き受けないような優良学術図書の刊行頒布の事業を行い、学術の振興および文化の発展に寄与することを目的とし、

- (1) 会員の教科書および学術研究報告の刊行頒布
  - (2) 会員の学術図書の刊行頒布
  - (3) 会員のデータベース、ソフト等電子出版物の刊行頒布
  - (4) その他前条の目的を達成するために必要な事業
- などを行っているNPO法人です。参加を希望される方は、下記事務局へお問い合わせください。

〒599-8531 大阪府堺市中区学園町1-1  
大阪府立大学中もずキャンパス内

NPO法人大阪公立大学共同出版会(OMUP)事務局

電話：072-251-6533 フaxシミリ：072-254-9539

e-mail：omup@hs.osakafu-u.ac.jp

URL：<http://www.omup.jp/>

入会金：一口一万円（終身会費）

振込先：三菱東京UFJ銀行 中もず支店 普通 3976510